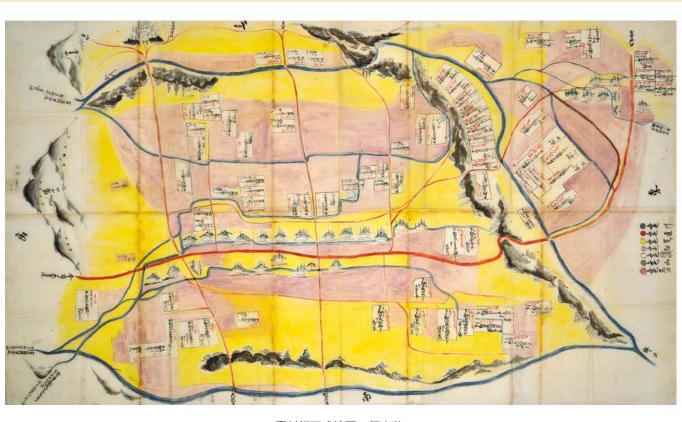
#### 令和2年度テーマ展

# 報徳仕法の集大成

## - 「轟村一村式仕法」の全容-

### 日光市二宮尊徳記念館



上の絵図は、

1866 (慶応2) 年頃の轟村

富に遺されています。

た今日に至るまで、

有形無形の報徳の足跡が豊

われています。そして、この地域には10年を経

われる報徳仕法の集大成となるモデル事業が行

の状況を示すものです。

水路を青、

道を朱、

轟村畑田成絵図 個人蔵

知ろうとするものです。 明らかにしながら、 的な姿をみせてくれます。 をもつ日光地方の報徳仕法の実態を探るきっ た皆様方の新たな発見につながり、 た様子を示しており、 このテーマ展は、 報徳仕法により、 畑 田 成 成 (畑の水田化)を白で示して 轟村の一 実際の報徳仕法のあり様 私たちに報徳仕法の具体 この展示が、 荒地が水田に蘇 村式仕法の詳細 来館され

けとなることを願っております

# はじめに

日光のお膝元である日光神領村々では、 明治維新(1868年) 直 前 の16年間

次郎

(尊徳)・弥太郎

(尊行) 親子らによる農

村復興事業

(報徳仕法)

が実施されました。

轟村と千本木村は、 せんぼん ぎ

「一村式仕法」と言いっそんしきしほう

戸

村

畑 検が

地 地。

帳き

主

地台

をみる

地時

の代

大部分

はの

領地と

検

地

帳

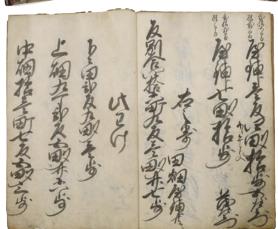
に基づく

#### 2-1 江戸時代の轟村の耕地状況一覧

等級	面積	割合 (%)	筆数
上田	_	0	0
中田	_	0	0
下田	_	0	0
下々田	2反9畝01歩	0.6	20
上畑	9町2反5畝26歩	19.7	168
中畑	11町7反5畝03歩	25.0	219
下畑	15町2反0畝21歩	32.4	294
下々畑	7町8反1畝20歩	16.7	152
屋敷	2町5反9畝16歩	5.5	32
計	46町9反1畝27歩	100	885

- ・1666 (寛文 6) 年 8 月 轟村検地水帳より作成
- ・江戸時代を通して、轟村の耕地の状況は表のとおりでした。





- ↑下野国日光領轟村御検地水帳2冊 1666 (寛文6) 年8月 個人蔵
- → (右) 轟村御救金被下置候御請書 1787 (天明7) 年2月 個人蔵 天明の飢饉に際し、日光目代の山口氏役所から轟村 各戸に与えた「御救い金」の受取りの覚書。

#### → (左) 轟村雑穀御改帳

1833 (天保4) 年 11 月 個人蔵 天明期 (1780 年代) に続き、天保期 (1830 年代) にも大規模な飢饉に襲われている。日光奉行所では、 日光神領内の村々各戸の米・稗・大麦・小麦・栗・蕎麦・ 大豆・小豆の保管状況を調査している。

主(日光目代や日光や家数が減少し、 災害による飢饉が全国各地を襲っています。天保期(1830 年代)には、冷害などの白 村にも飢饉の波は押し 期 金」を与るの飢え人のい なかなか歯止 を与えます。 年代) 状況を調 光奉行所) 荒地 めがかかりません。 寄せてお が増 には、 査 大し **b** 冷害などの自然 救済 7 その対応とし 荒廃化 います。領徐々に人口 のため 0  $\mathcal{O}$ 



重い負担となっていました。

戸

時

代後半の天明期

 $\widehat{\stackrel{1}{7}}$ 

8 0

年

代

の調達を命じら

れる

助け

郷がし

今市

宿

とって

年貢

でした。

神領の年

責は、

他

0

地と比較すると低率

#### ↑轟村飢人調書

1787 (天明7) 年正月 個人蔵

冷害による諸国大飢饉のさなか、日光神領内でも飢え人の数を調査している。 轟村では、38 軒中 22 軒 (58%) が飢えていることを日光目代の山口氏役所に報告している。









↑仕法導入以前の轟村絵図 1822 (文政 5) 年頃 個人蔵 轟村と周辺村々とが境界確認をした絵図で、報徳仕法導入前 (31 年前) の轟村の様子が描かれている。 ここから、用水路が未整備で水田がほとんど無い状況が読み取れる。



#### **←**今市詰人馬割合帳

1860 (安政7) 年正月 他多数 個人蔵 轟村は、今市宿の公的通行を補完する人足と 馬を供給する助郷村 19 村の 1 村に定められ ていた。今市宿は、日光道中(日光街道)・ 日光道中壬生通(例幣使街道)・会津道(会 津西街道)の3街道の結節点で、諸大名の日 光参詣等の際には多忙を極めた。助郷村には、 今市宿の問屋から人馬の調達命令が頻繁にあ り、轟村民には重い負担となっていた。

領 35

(現真

岡

市

**陸興事業** 

(報徳仕

法

を命じら

この

成 0

功 復

により、

金次郎

で報徳は

仕

法

歳の

小

田

原藩主大久保公から分

家の字

家

次

郎 時

は

1 7

8 7

(天明7)

年に

小

田

原

で

誕

各方面から れました。

注目されるようになります。

8 5 3

(嘉永 6)

年

2

67 歳

の 二

幕府から念願

の日光神領の荒地四5念願(7 年前に日

地旧復仕法な に日光神領の

0

仕 宮

れ形が郎

雛な次

位法を命じ

じら 法 金

# 日光 御 神領 の 報徳仕法始まる

#### ➡轟村荒畑並弁納畑人別馬数書上帳 1853 (嘉永6) 年3月 個人蔵

1853年2月13日、二宮金次郎は幕府から日光神領 報徳仕法の命令を受けている。日光奉行所は、その 直後の3月に領内89か村の実態調査を実施。この 古文書は、轟村から日光奉行所に報告したものの控 えで、以下の内容である。

- ・轟村の石高は211石6斗4升4合
- ・反別は46町8反1畝09歩 その内、荒畑が21 町0反6畝01歩(荒地率45%)で、村で負担す る潰弁納分は12町2反9畝18歩(26%)
- ・家数は26 軒 人数は117人(男63人・女54人)
- ・馬数は18疋





↑今市報徳役所使用の御用重箪笥 1864(元治元)年4月 個人蔵

底に、「日光御神領村々荒地起返難村旧復仕法取扱御用重 箪笥 元治元甲子年四月二十日造之 二宮弥太郎尊行(花 押)」の墨書がある。つまり、この箪笥は今市報徳役所で 使用されていた箪笥で、1864年に造られたものであるこ とがわかる。轟の旧名主宅に伝来したもの。また、引き出 しの中には、借用証文等の反故紙による渋紙が入ってい る。なお、このパンフレットの柱には、この簞笥に書かれ た弥太郎の花押を使用した。



★今に伝わる二宮家使用の長持 1853 (嘉永6) 年3月 個人蔵

轟の旧名主宅に伝来したもの。長持の底と蓋の裏に 「嘉永六年癸丑三月造 二宮氏」の墨書が見える。

の轟

村

一村式仕法の様子を正確に伝

えてく

n

ます。

同

年

3

月

0

光奉

行 内

所

を作成済)

0)

荒地という状況でした。

調査では、 なお、

神領

89 日 か

村

耕

なお、嘉永6年3月16日付の「東郷陣屋日記」(『二宮尊徳全集』 第5巻所収)に、桜町(現真岡市)の職人に長持一棹を造らせた 記述もある。

25 名

は、

この戸籍簿の戸主

(世帯主)たちでした。

生き抜

村式仕法を金次郎・弥太郎親子に必死に懇願した

名主五右衛門をはじめとする村役人たちは、

様子を克明に書き留めており、

現代の

いた人々の名前が記載されています。



↑二宮様御取扱御仕法書上帳 1857 (安政 4) 年 8 月 個人蔵 1857年(安政4)に、轟村で行 われた一村式仕法のあらましを示 す史料が、今も轟に残されている。 農業出精奇特人の入札・極難困窮 人の入札・用水堀普請の賃金と扶 持米・潰百姓取り立てなどの具体 的な様子がわかる。



↑村方取建仕法に付轟村惣百姓願書 1855 (安政 2) 年 8 月 個人蔵 轟村一同 25 名から二宮金次郎・弥太郎親子 に宛てた仕法嘆願書。報徳役所は、この願書 を承認して、轟村一村式仕法を開始する。

4 轟村 の 式 仕 法 い ょ いよ 始

地 域 に は、 現 在千点以 上の古文書が存在 します。

丹念に史料をみて

( J

くと

その

中に報徳仕法当

つきりと残されています。

宗門人別帳(戸籍簿活躍した人々の姿がは

(戸籍簿)

には、

仕

法の真っただ中

を

また、









#### **↑**轟村宗門御改帳下書

1854 (嘉永7) 年3月 個人蔵

元々は、村民がキリシタンではなく、寺院の檀家であることを証明したものだが、次第に村の戸籍簿の役割を担う。ここに記載された一人一人が、轟村の一村式仕法実施当時に活躍していた。なお、江戸時代の轟村には、名主 1 名と年寄(組頭)4 名がいた。

#### 4-1 嘉永7 (1854) 年 轟村宗門御改帳 (下書) に基づく戸籍一覧表

上の古文書より作成

No.	戸主 (数字は年齢)	寺	計	人数	女		5,5	家 族 構	成 (對	数字は年齢)			15~ 60 男数	持 高 (石)	馬数(疋)
1	名主五右衛門 49	法	8	6	2	女房まさ 46	件五郎左衛門 33	嫁ゑひ 28	二男丑松 26	三男豊吉 23	孫金太郎 11	孫兵蔵 4	4	11.43793	1
2	年寄徳右衛門 49	法	7	3	4	女房きち 47	嫁りゑ 38	件縫之丞 23	娘いゑ 13	三男忠吾郎	四女ちい 5		2	11.91830	1
3	年寄 <u>四郎右衛門</u> 65	法	4	3	1	伜七蔵 24	兄	嫁きみ 27	女房とく	甥與三郎 35	(は、	削除を示す)	2	7.82034	1
4	年寄喜兵衛 49	法	7	4	3	女房かつ 38	兄次五右衛門 63	姉ふて 59	件彦右衛門 31	嫁みつ 29	二男金吾 11		2	5.78681	1
5	年寄吉左衛門 49	法	8	3	5	件次郎左衛門 36	嫁はつ 35	孫きく 11	孫いの 17	三女つき 6	四女わき 3	賞子与年告 14	2	5.46009	1
6	藤右衛門 35	法	5	4	1	父勇次 65	女房とよ 27	弟伊勢吉 28	件幸吉 4				2	4.68011	1
7	清左衛門 72	法	1	1	0	養子鉄藏 (加筆)							0	6.10736	0
8	忠左衛門 40	法	1	1	0								1	3.60539	0
9	百姓代喜左衛門 31	法	3	2	1	母さよ 55	弟伴次 21						2	8.71784	1
10	福蔵 29	法	2	2	0	弟寅蔵 24							2	6.41218	1
11	伊右衛門 32	法	6	2	4	祖母しの 82	母きよ 52	女房きち 29	件吉之助 10	娘きさ 5			1	7.58158	1
12	弥右衛門 50	法	4	3	1	女房かね 34	件文弥 12	二男文五郎 4					1	7.61511	1
13	長左衛門 57	法	4	2	2	女房まき 52	伜長松 27	娘てふ 19					2	4.47294	1
14	佐右衛門 45	法	6	2	4	母かん 61	女房かね 36	弟覚右衛門 37	嫁すて 31	娘はつ 10			2	7.29989	1
15	伝左衛門 58	法	5	3	2	<u>父伝右衛門</u> 78	女房こん 51	娘 <u>その</u> 27	二男専吉 20				2	5.28889	1
16	定七 51	法	6	1	5	女房むめ 42	娘ゑん 18	次女いせ 14	三女かね 9	四女もと 4			1	6.20699	1
17	亀吉 45	法	1	1	0								1	3.59110	0
18	与市 31	法	3	3	0	弟久二郎 25	貰子茂兵衛 3						2	1.85093	0
19	武右衛門 52	法	4	1	3	母さと 69	女房いの 50	娘もよ 17					1	5.77904	1
20	恵之助 21	法	3	2	1	母つる 59	兄久次 35						2	5.96718	1
21	太右衛門 59	法	3	1	2	<u>妹つめ</u> 35	娘りゑ 27						1	3.60069	1
22	吉郎兵衛 53	法	4	2	2	女房はや 45	智磯七 33	娘まつ 26					2	5.80567	1
23	次郎右衛門 22	法	4	1	3	母のぶ 55	女房しぶ 20	妹つね 16					1	2.81914	1
24	亀太郎 27	法	5	3	2	母かの 55	女房はな 24	弟辰之助 22	三弟亀次 9				2	3.58960	0
25	善左衛門 68	高	3	2	1	女房はつ 62	伜惣吉 31						1	3.37495	0
26	甚兵衛 35	高	5	3	2	女房まる 29	伜甚太郎 9	二男甚二郎 6	三女ませ 3				1	5.84009	0
合計			112	61	51								42	152.63014	19

:安政 2 年(1855)8 月の轟村―村式仕法開始時の「轟村荒地起返難村旧復之仕法向願書写」(『二宮尊徳全集』第 28 巻所収)に記載されている者です。

:後年に戸主として登場する者です。

「法」: 法蔵寺 「高」: 高声寺を表しています。

#### 5-1 轟村荒地起返しの実施面積及び費用の集計表

	年	号		面	積			費	用	1
No.	和暦	西暦	⊕т	反	畝	步		金		永
	化加	<u> 276</u>	(w	IX.	田人	<i>D</i>	両	分	朱	文
1	嘉永7	1854		9	9	14	7	2	2	26.3
2	安政 2	1855	5	0	4	26	38	3	0	85.9
3	安政3	1856	1	3	5	26	10	1	2	76.3
4	安政4	1857	1	4	2	19	10	3	2	96.7
5	安政5	1858		4	4	28	3	1	2	29.1
6	安政 6	1859	2	3	0	18	18	1	0	78.6
7	万延元	1860	1	6	2	23	13	0	3	83
8	文久元	1861	2	1	2	23	16	3	2	116.6
9	文久2	1862	1	2	1	13	11	1	2	84.3
10	文久3	1863		9	9	7	9	0	2	35
11	元治元	1864	2	4	5	10	34	0	2	14.8
12	慶応元	1865		9	1	4	32	0	0	70.5
13	慶応2	1866	1	3	1	24	31	3	0	116.8
14	慶応3	1867	1	2	4	12	38	3	1	61.2
	計		23	4	7	7	277	1	2	100

『二宮尊徳全集』第 28・29・30 巻所収の各年「荒地起返反別並賃金取調書上帳」より作成なお、金1両=永1貫文(1,000文)として計算しています。

花相经常工长

金型子的学生的社会。 多大型子的学生的社会。 多大型子的学生的学生的一方的一大学的一方的一大学的一方的一方的一个一方的一大学的一方的一大学的一



↑ 轟村荒畑起返書上帳(二宮弥太郎署名入り)1855(安政 2)年 4 月 個人蔵 荒地起返しの手順を示す史料。①起返した小字名・畑の等級・面積・耕作者を書上げ、②名主ら 村役人が、それらをまとめ弥太郎(報徳役所)に報告、③報徳役所が、その現地を確認の上、二 宮弥太郎名で起返面積に応じその費用(1 反歩に付銭 5 貫文)を与えた。

起返しによりそれ以上の23町4反7畝 ました。 きい場合は、 人足」という) (約21 h a) 法開始前の轟村には、 の荒地がありましたが、 報徳役所の雇 が直接実施する場合もあ 61 人足 21 町 余 (「破ば 荒地 h 畑た

ます。

自力で荒地起返しをした者には、1反歩(約

当り銭5貫文(約6万円)

を与えま

荒地起返し、金次郎は、

(再開発)

が最も重要と位置付けてい

荒廃した日光神領の復興のためには、

 $0 \frac{1}{0}$ 

ま 0 た 0 パ

自力起返しが不可能な場合や規模が大

5

復興仕法の中核

「荒地の起返し」

2

参照)。 2000万円)を支出しています(5-1なお、報徳役所では、その経費に77両余(約23・5ha)の耕地を復活させています。

6

表紙



#### 単位の解説

展示で使用している江戸時代の主な単位につい て解説します。



#### ず 面積の単位は?

江戸時代の土地面積は、町・反・畝・歩で表します。

1町=10反、1反=10畝、1畝=30歩

1歩=1坪≒3.3㎡(畳2畳分です。)

1 畝= 30 歩 ≒ 100㎡ (1a)

1 反 ≒ 1,000㎡

1 町 ≒ 10,000m²= 1 ha



#### ★ 1 若、1 本、1 本、1 常、1 答ってどのくらい?

1石=10斗 1斗=10升 1升=10合です。

米 1 合は、180ml = 150g

1升(1升瓶) = 1.8ℓ 重さ約1.5kg

1斗(10升) = 18ℓ 重さ約15kg

米1石の重さは、150kg (米1合の1,000倍)



#### 1 両は、今ならいくら?

金1両を米の相場で換算すると、米1石は150kgです。 (江戸時代、金1両で米1石が買えたと言われる。) 現代の米 5kgの値段を 2,500 円とすると、この相場の米 1 石 の金額は、150kg ×2,500 円 ÷5kg = 75,000 円となります。 今回の展示では、金1両=米1石=約75,000円 として換算しています。



#### 業 金と銭の関係は?

金1両=銭何貫文?

金  $1^{\frac{1}{100}} = 4 \stackrel{\stackrel{\stackrel{}{}}{}}{0} = 16 \stackrel{\stackrel{}{}{}}{} + 1 \stackrel{}{}{} + 1 \stackrel{}{} + 1 \stackrel{}{}{} + 1 \stackrel{}{} + 1 \stackrel{}{} + 1 \stackrel{}{} + 1 \stackrel{}{} + 1 \stackrel$ 

銭の単位は文、1,000 文= 1 賞文です。

江戸時代初期の金と銭の相場は、

金1両=銭4貫文=4,000文でした。

しかし、この相場は変動しており、幕末期には、

金1両=銭6貫500文程度となっています。



以上、「古文書ネット」等を参照しました。

#### 5-2轟村荒地起返しの結果ランキング一覧表

No.	耕作者名	町・反・畝	歩
1	五郎左衛門	239	21
2	五右衛門	138	14
3	彦左衛門	131	8
4	與左衛門	126	12
5	甚兵衛	112	15
6	七蔵	102	27
7	藤兵衛	91	8
8	徳右衛門	87	20
9	伴七	81	7
10	藤右衛門	80	19
11	定七	79	25
12	武右衛門	76	15
13	與市	73	21
14	覚右衛門	73	19
15	音吉	69	24
16	彦右衛門	67	10
17	福蔵	66	13
18	恵之助	62	17
19	伊右衛門	62	9
20	重左衛門	51	5
21	清左衛門	48	8
22	喜三郎	43	21
23	金助	38	9
24	鉄藏	35	21
25	吉左衛門	33	14
26	吉郎兵衛	32	18
27	助次郎	28	17
28	長左衛門	28	3
29	磯七	25	9
30	次郎左衛門	23	17
31	豊吉	22	18
32	治郎右衛門	22	15
33	喜左衛門	20	14
34	亀太郎	12	8
35	伝左衛門	12	5
36	丑松	10	
37	弥右衛門	9	22
38	多左衛門	8	7
39	仙吉	4	1
40	藤左衛門	4	
41	熊次郎	3	20
42	茂吉	3	6
43	亀吉	1	15
	· 計	23町4反7畝	7歩

(2)/]\	字別ランキング	7	
No.	小字名	町・反・畝	歩
1	畑中	390	21
2	北	268	29
3	後	188	17
4	松原	181	17
5	塚の前	123	28
6	道端	119	6
7	河内	100	8
8	瀧の上	99	26
9	畑中道上	97	8
10	下原	82	4
11	廟所の前	63	
12	上原	51	10
13	屋敷	48	23
14	館の跡	43	0
15		42	29
16	間々下	38	19
17	梅ヶ沢	32	10
18	坂下	31	22
19	土手下	30	29
20	館下	28	20
21	館の添	25	17
22	泉立	23	25
23	地境	20	23
24		18	23
	那美柿		_
25	間々上	18	4
26	柳の下	16	22
27	館のみ	13	5
28	関之澤道	12	
29	地田	10	25
30	大久保	10	24
31	館の台	9	28
32	澤端	9	10
33	道上	8	16
34	澤くりめん	7	20
35	澤の上	7	12
36	野添	6	23
37	そりかわ	6	13
38	壱ッ橋	6	5
39	はりかわ	5	15
40	堀添	5	
41	ひろの後	4	24
42	屋敷前	4	24
43	篠原	4	8
44	畠ケ	4	6
45	畑中道下	3	18
46	上山	3	4
47	屋敷	3	
48	つつじヶ入	2	20
49	庚塚	2	10
50	帯の所	2	
51	寺の下	2	
52	宮の前	1	27
53	桜ヶ沢	1	10
			_
2	計	23町4反7畝	7歩

①・②共に『ニ

# 「用水堀の普請

悪水抜きがない。 破畑人足・村民による「御普請」があります。用負担の区分は、村民による「自力普請」 用負担の区 今市 力普請」 えようとする主体的な取組みです。 遊休地に 等) 扇だ光 状質地質 0 水路 豊富な水を活 (排水路工 心内を流 村 新規用水堀・ を整 々 0 報徳無利息(足) 備し れる 用 事 水堀普請 崩 河 古水路の による「自力普請」と、があります。また、費 生 Ũ ΪĬ 産 ています。 (大谷川・ 怪性の高 昭の堀浚や拡幅です。用水普請の 金を活用し 1/2 水 荒 田た が田に変 れ畑 川• 福・ 0 や 行ぬ

す。 の賜物です。轟村の供る農業用水の多くは、 も見えます。 最終的には日光奉行所が裁定をするという構 る村と、 その調整に、 水や土 用水普請に伴い、 1のとおりです。 今日、 轟村の仕法による用水堀普 地をめぐる争いも 弥太郎ら報徳役所が立会い、 私たちが恩恵に預 こうした先人たちの努 下 流 0 頻発していま 村 々や隣接す がって 図 力 67

右之内無利息金

朱

永

0

分

0

永

0

0

0 110.9

2 123.3

3

0 169.4

5 201.3

3

51.2

7.3

47.4

78

47.4

43.1

8

6

0

14

0

3

0

3

画

8

全集

巻-頁

28 - 559

28 - 539

28 - 697

28 - 698

28 - 847

29 - 597

30 - 61

0

44

0

44

0

2

0

2

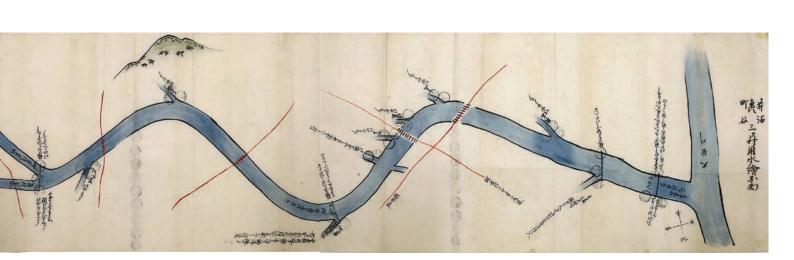


います。



↑ 芹沼・轟・町谷三ヶ村用水堀普請人足賃金扶持米取調書上帳 1857 (安政 4) 年 8 月 個人蔵

二宮金次郎・弥太郎親子に提出した 1857 (安政 4) 年の用水堀普請 (一覧表中のNo.5 の 堀浚工事) の実績報告書。内容は、今市地内字黒石 (大谷川を分水する堰がある) から芹 沼地内の町谷・轟分水口までの堀浚工事の実績を書き留めたもの。都合人足 472 名が参画し、その賃金・扶持米の代金 11 両 1 分余 (内 6 両 3 分余を報徳無利息金拝借) を要した。





6-1 轟村報徳什法による用水堀・用水堀浚い・悪水抜き堀の普請概要一覧表

0-1		小畑多	どい・志	水放さ畑0.	一音前位	<b>光安一</b> 頁	· 							
No.	期間	西暦		種別		さ 1.818m)	場所		人足内訴	(名)			費用	総額
			内容	費用負担	(間)	(m)		都合	轟村	外村	破畑	両	分	朱
1	安政2年3月	1855	新堀	自力・ 無利息	250	455	芹沼残水引入れ	16	16	0	0	8		
	安政 2 年 9 月 12 ~ 13 日 (実働 2 日)		堀浚		214	389	字梅ヶ沢水神石碑 〜若林車屋	29	21	0	8			
	安政 2 年 9 月 24 ~ 25 日 (実働 2 日)		堀浚		154	280	字梅ヶ沢〜分水	18.5	10.5	0	8			
2	安政2年9月晦日~10月1日 (実働2日)	1855	新堀	御普請	264	480	字曲沢屋敷上~石橋	40	22	0	18			
	安政 2 年 10 月 2 ~ 5 日 (実働 4 日)		新堀		369	671	字城下~小川	57	26	0	31			
	安政 2 年 10 月 12 ~ 17 日 (実働 4 日)		堀浚		573	1042	芹沼内町谷分水口 ~字富士山前	67	39	0	28			
	小計				1574	2862		211.5	118.5	0	93	7	1	
3	安政 3 年 4 月 15 ~ 20 日 (実働 6 日)	1856	新堀	御普請	328	596	字曲沢	83	50	0	33	2	0	
4	安政 3 年 12 月 1 ~ 2 日 (実働 2 日)	1856	新堀	御普請	168	305	字地田下古堀	27.5	10.5	0	17	0	3	
5	安政4年8月6~28日(実働9日) (町谷村共・芹沼村冥加人足有)	1857	堀浚	無利息 ・御普請	1300	2363	今市地内字黒石 〜町谷・轟分水口	472	115	209	148	11	1	
6	文久元年2月晦日~3月13日 (実働5日)(道橋普請共)	1861	悪水	御普請	223	405	字畠中・曲沢館坂下	66	43.5	0	22.5	2	1	
7	慶応元年 3 月 20 ~ 11 月 10 日 (実働 35 日)(畑田成共)	1865	悪水	御普請	148	269	字館坂下	401.2			401.2	38	3	
	新用水坑	<b>B</b>			1379	2507		223.5	124.5	0	99	17	17	
計	用水堀沒	ž			2241	4074		586.5	185.5	209	192	11	1	
51	悪水抜城	<b>B</b>			371	674		467.2	43.5	0	423.7	40	4	
	合	dž			3991	7255		1277.2	353.5	209	714.7	74	0	

- ・『二宮尊徳全集』第 28・29・30 巻掲載の各年「用水堀普請人足賃金扶持米取調書上帳 轟村」等より作成
- ・「種別 費用負担」欄中、「自力・無利息」とは:轟村人足の自力普請で、報徳無利息金を活用しています。

<sup>「</sup>御普請」とは:報徳役所の直轄の工事で、 報徳役所から破畑人足へ賃金・扶持米や轟村人足へ扶持米が支給されています。



↑芹沼・轟・町谷三ヶ村用水絵図面 1858 (安政 5) 年 2 月 個人蔵

難航していた芹沼用水(ここで言う三ヶ村用水のこと。元々芹沼村が大谷川から引水した用水堀)の分水問題について、日光奉行所と二宮弥太郎・伊東発身の立会いのもと、成立した分水に関する三か村間の取決め。大谷川からの引水量を10として、芹沼5:轟2.5:町谷2.5の割合で分水することを決定している。

## 7 民主 |的選挙による 「働き者 の 表

働き者の 彼は、この経験を踏まえ選挙による出精人= 藩に提言を行い、藩主から表彰されて 次郎 表彰制度を考案します。 は 小 田 原在住 0 92歳  $\mathcal{O}$ 時 4 います。 小 油原

出した出精奇特人(働き者)を選出する方法 より対象者を互選するものです。 1の一覧表 19世紀半ばに、このような民主的 村 各戸の世帯主に1票を与え、 式仕法を展開する中で、 (屋根替入札を含) (戸主) が表彰されており、 金次郎 その投票に をみると、 手法を実 が あ 7 2

轟村民が一丸となり仕法を推進している様| 12年間にほぼ全員 が想像できます。 践した金次郎の先見性には驚かされます。

告此は相後ずり 可多名中付置いる「相和 在成在安在话法 之五 班都察来教与情名 店 れ人立人後とかくしみあ 会刊を年期を信み 作分 ちる西北相後の此合松西 何若知一同中去 医新精升 其方至農業技艺精心掛 我好他的我是一年 代文 電優交合を多新級 安改二百座年十八 中海

#### ↑農業出精奇特人入札壱番札申渡

1856 (安政3) 年10月 個人蔵

轟村民27名による入札の結果、8票を得た彦右衛門が壱番札を獲得。 その褒美として①金1両、②新鍬1枚、③新鎌2枚、④金10両の報 徳無利息金拝借という栄誉に輝いた。

門我是政島市品あると多 サン田桐法属れてそ 日春ちない力なるしたるる 去か年村松のる立のはは、勢が 名なるのはあ像 ある者 野又人う放 そ村なるな連り国民的教授 中五部一通与信知公東一周 都不可以此格子を方とうま 有如果的我好多名人多 分子がそろとはまれるから 傷些のあると不人族元 死用点人今ります らさ かり らんまにるはあれ 俊 杨初了以 300

#### ↑極難困窮人入札四番札申渡

1856 (安政3) 年2月 当館寄託

轟村民27名による極難困窮人の入札の結果、2票を得た恵 之助が四番札を獲得。生活援助のための御救い米2斗(1票 に付1斗)が与えられた。



#### ★金助、潰弥八式相続取立に付申渡 附別紙 1865 (慶応元) 年 11 月 当館寄託

吉沢村清次郎の次男金助が、轟村の潰れ式弥八家 の養子となり再興している。その際、報徳役所か ら新家屋30坪と灰小屋の普請、夫食米10俵、農 具一式・釜・鍋・筵に至るまで与えられ自立のた めの支援が行われた。

## 8 民 主 的選挙による 木 人 の 救済

します。 ます。 Ŕ もはや入札の必要性が無いという状況に達 初の対象者は一 るものです。 票数 1票に対し、 付事業に相当すると言えます。 済事業をみると、 しています。 で約18ℓ)を与え、 により、 手法を採用してい 出精奇特人と同様の入札という民主 仕法実施の過程でその数は徐々に減 難な この困窮人救済の対象者選 別事情 困窮人とは、 (音吉の養子) 一人だけが困窮者で、 そして、1865 (慶応元) 年には、 際立った貧困状態にある者を指 今日的視点で、この困窮人救 8 (一人暮しや老幼世帯など) 定の者に集中しています 、ます。 現代の社会保障 御救い米1斗 困窮者の生活を救済す の一覧表をみると、 命 救済の仕 に生きようとして 'の福 方は、 出  $\widehat{\parallel}$ 田の際に 10 当 升 的

応元) 責任 います。また、年貢や諸役負担において連帯この潰れた跡を「潰れ式」・「潰れ跡式」と言 も現存していることから、 え入れ、家数を維持する方法も取られました。 改善するために、 連鎖しています。 ることができます。 取り立ての状況は、 存続を図ろうとしたのです。 に甚右衛門潰 音吉が再興、 轟村では、 に 右衛門潰れ式を豊吉が再興、 潰ぶ荒 1 轟村では、 の義務のある当時の村社会では、 れ 1 8 5 6 年に弥八潰れ式を金助が再興、 等により絶える家が続出しています。 下にある村 4 軒の潰れ式を再興しています。 2 1 8 5 7 れ式を助次郎が再興してい (安政3) こうして家数を維持し、 村内や他村から勤労者を迎 村々では、 々では、 関連史料や報徳仕法農家 年に幸助潰れ式を (安政4) 出っぽん その実態を伺 こうした状況を なお、 3 1 8 6 5 (家出) ③ の 金 年に 潰れが **(4)** 村の 前年 や ま 慶 源 助

### れ 式再興 によ る

9

# 百姓の取り立て」



7-1轟村一村式仕法による農業出精奇特人及び出精人屋根替の入札結果一覧表

表彰人数 (票数)	30 助次郎	29 金助	28 彦左衛門		26 亀太郎	25 伴七	5年	佐右衛門	23 (日姓代) 仙吉	(州幸福)	22 重左衛門	太左衛門	į	20 (百姓代)   弥右衛門	年寄	-	17 百姓代 定七	16 與左衛門	15 甚兵衛	50 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30	13 年帝	1	12 清左衛門	茂市	恵之助	伊勢吉		9 年寄 吉左衛門		8 名主 五右衛門	II X		6 百姓代 藤右衛門	5 百姓代 銀七	4 (白姓代) 伊石衛門	1	中。	中學	併修
9 (25)			3	<u>P</u>	0		3			■9 (1)	4			0	³9 □4(1)		0	ag (善左衛門養子)	<b>3 (2)</b>		04 (1) 04 (1)		<b>3</b> 9 ○4 (1)		0		마	³9 🗆 1 (12)	衛門	•9		• PE		1			_	$\vdash$	門
5) 10 (25)										5 (1)		2 (4)		3 (3)		5 (1)		藤子) 5 (1)	4 (2)						5 (1)			10				5 (1)						① (8)	
7				0	0	○ 5 (1) (安政3年潰 長右衛門式取立)		0		0	(	0 0		05 (1)	□2 (8)	04 (2)	<b>ා</b> 3 (6)	0	0		0 - (8)	•	0		0	(漢拏助氐耿立)				0		•	•		3 6 6			] C	
(27) 5 (					4 (3)	は関立)								3 (6)	3)	2)   5 (1)	3)		① (9)		3					,яхи.)	Ho-t-					② (8)							
(27) 8			調量	0	0	0	5 (1)	0		0	-	0 0		္အ		05	0	O 5	0		02	]	0		ा		0			0		0	•				]		4
(27)			豊古 (濃源右衛門式取立)								ĵ	(2)		(6)		(1) (0)		(F)			6	-	02		(8)									U	- 1			(2)	(2)
3 (27)																(14)							(7)											(0)					
7 (27)				0	0	06 (1)	(佐右衛門相続)	0		O5 (2)	(太左衛門相続)			O3 (4)		O2 (5)	O 4 (3)	0	0				06 (1)		0		0			0	(喜左衛門養子)	0	•				))	_	(11)
9 (28)			(豊吉を改名)	0	0	0	5 (2)	0		ୀ (8)	O6 (1)	(重左衛門へ)		ୁ (3)		0	0	0	0		0 [		06 (1)		0		0			0	06 (1)	(藤兵衛へ)	0	(4)	رم   د			С	0
5 (28)			O4 (3)	$\vdash$	0	0	ි2 (8)	(覚右衛門へ)		0	0			ි3 (6)		0	•	O 4 (3)	0				0		0		0		◎見習	0	0		0	6	-	0	)	C	0
5 (28)			O2 (4)	0	0	0	0			0	04 (1)			01 (15)		0	<b>3</b> (4)	O3 (4)	0				0		0		0		◎見習	0	0		0		• C	0	)	С	0
5 (28)			0	0	0	<b>3</b> (5)	0			0	4 (3)			0		0	ි2 (6)	O3 (5)	0				ୀ (9)	(恵之助養子)	0	(音吉養子)	0			0	•		0		) C	C	)	C	0
5 (28)			0	04 (1)	0	O2 (7)	0		(伝左衛門相続)	0	3   (4)		(弥右衛門相続)	0		0	0	ୀ (12)	0	(武右衛門養子)	0 0	(清左衛門養子)	0	0	(茂吉へ)	0	(伊勢吉へ)		0		•		0	(吉郎兵衛相続)	0 0	3 (4)	)	C	0
6 (28)			0	O4 (4)	0	0	0		Н	(仙吉へ)	0 4 (4)			(善三郎へ)		0	0	0	05 (1)	$\vdash \vdash$	(路水艦人)	╁	+	0		0			0		• 1 (7)		ු 3 (5)			02 (7)	ì	C	(与市相続)
5 (27)	助次郎 (漢基右衛門式取立)	金助 (潰弥八式取立)	0	O2 (6)	0	0	0		0		ි 3 (5)		0			0	0	0	ි 4 (3)	0		1 C		0		0			0	○見習 (孫:五右衛門)	•		ୀ (12)	0	С		]	C	05 (1)
36両2分*	2分	2 分	3分	3分		3 分	3分	1	l 画	1	3 分	1 1	 ] 副	I	1両2分	3分	画	3 分	3分	3分	- 国 2 分	3 23	)	3分	I	3分	I	1 両2分	5 画	1両3分		1	回	副	3	1 個 2 分		3 3	3 分
71			ω	ω		4	ω			ω	ი -	_		6	2	3	4	Ŋ	ω		2 2	)	4		_			٦		٦	2		2	u	) N	0 10	)	2	2
18 @					_					_	-	<b>.</b>		2①		3①			2 ①				10		_							2①		-	-	10			

<sup>・</sup>表の見方は、安政2年の№9の「年寄吉左衛門 □1(12)」を例にとると、□:年寄の吉左衛門が、轟村の各戸主による出精奇特人の入札において、「12票」を獲得して「1番札」となったことを示しています。 ・◎:名主 □:年寄 ●:百姓代 ○:百姓を示します。 なお、「(百姓代)」は、轟村一村式仕法が終了する慶応2年に、「仕上褒美金」を受け取る際に、百姓代として金1両を受け取っていることから、( )書きで示しました。 \*外に年寄見習等への褒美金あり

#### 8-1 轟村一村式仕法による極難困窮人の入札結果一覧表

『二宮尊徳全集』第 28・29・30 巻より作成

No.	役 職	名前	安政3年2月	安政4年8月	安政5年7月	安政6年5月	万延元年7月	文久元年4月	文久2年7月	文久3年7月	元治元年6月	慶応元5月	合計回数
1		與市	O 3(3)	O 2(4)	O1(10)	O 4(3)	O 2(7)	○ 3(2) 1 分・ 50 文薬用手当	O 2(10)	O2(11)	O1(17)	(熊次郎へ)	9(1・2番札6回)
		熊次郎											
2		次郎右衛門	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
3	年寄	七蔵	□ 5(1)	□ 4(2)	O 5(2)	○ 3(5)	O1(13)	O 2(4)	0	0	0		6 (2)
4	百姓代	伊右衛門	<ul><li>○ 1 分病難手当</li></ul>	0	•	0	0	0	0	0	0		
$\vdash$	DAIL			_									
5	百姓代	吉郎兵衛	0	0	0	0	0	•	0	0	(磯七へ)		
	T+4./1\	磯七	• 5(1)	<b>■ 1/C)</b> 0 (\data = 1/C)	O C(1)	○ F(0)	0	O 1/10)			0		F (0)
6	百姓代	藤右衛門	● 5(1)	● 1(6) 2分姉薬手当	O 6(1)	○ 5(2)	U	O 1(10)	0	0	0		5 (2)
		喜左衛門	O 4(2)	O 4(2)	O 3(4)	(藤兵衛へ)		_					3 (0)
7	百姓代	藤兵衛				○ 2 両 農具・家具手当	○2分 娘2人病薬用手当	○ 稗2石代2両1分· 57.7文(伴七共)/1両 1分2朱·25文薬用	● 3 分 妻病難渋手当	•	0		
8	名主	五右衛門	<ul><li>○ 1 両 2 分村内</li><li>一同に屋根替手当</li></ul>	0	0	0	0	0	0				
١١	-01	五郎左衛門	2分 病難手当				◎ (名主見習)	◎ (名主見習)		0	0		
9	年寄	吉左衛門			□1両2朱								
H	1 49				起返手当								0 (1)
10		音(乙)吉	O 3(3)	O 4(2)	O 4(3)	O 1(9)	O 4(3)	○ 3(2)	0	(伊勢吉へ)		火のエフリル会	6 (1)
		伊勢吉								○ 1(17) 1 両 (音 吉養子入) 農具手当	O 2(11)	米2石7斗代金 7両・105.3文	2 (2)
11		恵之助	○4(2) 1両1 分2朱・35.1文	0	0	0	0	○ 後家まさ 1 両 1 分・50 文 薬用 /2	0	(茂吉へ)			1 (0)
["]		茶士	畑田成手当					分難渋		0	0		
$\vdash$		茂吉					0 = 10 - 10 - 10						
12		清左衛門	0	0	0	0	○ 家焼米2俵代金1 両1分2朱・79.5文	0	0	0	(鉄藏へ)		
1		鉄藏		_		- (-+	- (	- (	- (		0		
13	年寄	彦右衛門				□ (年寄見習)	□(年寄見習)	□ (年寄見習)	□ (年寄見習)				
۱, ۵		武右衛門	0	0	○ 米2俵代金 1両1分40.3文	0	0	0	0	0	(弥兵衛へ)		
14		弥兵衛			1 岡 1 万 40.3 又						0		+
<del>                                     </del>			0 =	0.115		○ 2分 (2度)	_	○3朱・25文	_		_		- /->
15		甚兵衛	O 5(1)	O 4(2)	○ 2分 夫食手当	妻薬用	0	薬手当	0	0	0		2 (0)
16		與左衛門	O 2(4)	O 3(3)	○ 2分 夫食手当	○1分2朱	0	○2分3朱・25	0	0	0		2 (1)
17	百姓代	定七	0	0	0	畑田成手当	•	文薬用	0	0	0		,
18	DXII	長左衛門	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
$\rightarrow$	年寄	徳右衛門											
19	平句	弥右衛門	0	0	0	0	0	0	0	0	(喜三郎へ)		
20	(百姓代)	- 郭石偁   ]	0	0	O	0	U	0	U	0	(最三郎、八		
21		亀吉	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
21				_	0		U	0	U	0	0		0 (0)
22		太左衛門	O 5(1)	O 5(1)	0	(重左衛門へ)	0				○1両2分妻病薬用		2 (0)
$\vdash$		重左衛門		0		•	0	0	0	0			
23	百姓代	傳左衛門	0	U	0	•	U	0	0	0	(仙吉へ)		
$\vdash$		仙吉		$\sim$	$\sim$		(尚士德明本)				•		
24		佐右衛門 覚右衛門	0	0	0	0	(覚右衛門へ)		0	0	0		
25		<b>学</b>	O 1(6)	O 2(4)	○ 2分	〇 2 分	0	〇 稗 1 石代金 /1 両 1 分 畑田成手	0	0	0		2 (2)
			, ,	` '	夫食手当	妻病薬用手当		当 /1 分 2 朱 7.5 文 薬用手当					
26		亀太郎	0	<ul><li>2分2朱家作手当</li></ul>	O 2(7)	O 2(7)	0	0	0	0	0		2 (2)
27		福蔵(松)	O 5(1)	0	0	O 5(2)	O 3(5)	O 1(10)	O 1(18)	0	0		5 (2)
28		彦左衛門	J 5(1)		(豊吉→彦左衛門)	0	0 3(3)	0 1(10)	0 1(10)	0	0		J (L)
29		金助			(五口 //2/江柳1]/			)					
30		助次郎											
1		富三郎											<del>                                     </del>
2		文蔵											
3				/曲十字四十	m+0/1257								
		源右衛門		(豊吉潰取立)	豊吉 3 分起返手当								
4		弥八										金助取立	
5	潰退転	久蔵											
6	判明分 11 軒	庄右衛門											
7	+1	甚右衛門										助次郎取立	
8		善右衛門											
9		定右衛門											
10		太郎左衛門											
11		栄助											
潰進	見転名前ろ	下明分 12 名											
			11(25)	9(26)	6(27)	6(28)	4(28)	5(28)	2(28)	2(28)	2(28)	入札なし 伊勢吉 1 人	
لب	<i>7</i> -> 1		. =44/2				Th 0 /F @N 0 F					H n n = -> 1- 1-	

◎:名主 □:年寄 ●:百姓代 ○:百姓を示します。 なお、表の見方は、安政3年のNo.25にある「伴七 1 (6)」を例にとると、百姓伴七が、轟村の各戸主による 極難困窮人の入札において、「6票」を獲得して「1番札」となったことを示しています。



◆報徳金御拝借証文之事 1856 (安政3)年10月 個人蔵 彦右衛門が壱番札の褒美として、 生活向上の手段に活用する金10 両の報徳無利息金を5か年賦で拝 借している。 轟村無利息金貸付の内訳

農具買入

肥料購入 43%

1%

嫁取入用

1%

出精奇特人 入札者 43%

用水普請 2%

薬用買入

農馬買入

借財返済

12%

家作普請

5%

起返し 地下げ 6%



# 身上調 査をしたうえで、 生活の立て直 (足) 個々

10

「報徳無利息金」を活用した

# 報徳役所では、 具体的には、 返済期間は、

と内容により、 年賦返済額と同額を報徳役所に 地の確保や生活改善のために報徳無利息 薬用購入等に活用されています。 貸付を実施しています。 の貸付・肥料購入・借財返済・農馬購入・荒地開発 なお、 この貸付を借用した者は、 1・3・5・7か年賦があります。 「報徳冥加金」(利は、完済後の次年に 出精奇特人へ 金額 金の Ò 耕



↑轟村報徳無利息金拝借証文(17点) 1855 (安政 2) ~ 1866 (慶応 2) 年 個人蔵





↑轟村報徳無利息金五ヶ年賦拝借証文の裏書(「報徳冥加金」の上納受取) 1864 (元治元) 年 10 月 個人蔵

この古文書(左側)は、轟村の武右衛門が焼失した家屋再建の資金として、金7両を5か年 賦(1年に1両1分2朱・永25文ずつ、5年で返済)で拝借した証文です。この裏書を見 ると、武右衛門は、完済後の6年目、報徳役所に報徳冥加金(年賦額と同額の1両1分2朱余) を上納しています。報徳役所は、この報徳冥加金を受領し、報徳仕法の原資(資金)に加え ることを明記して、二宮弥太郎の「尊行印」を押印している。

きます。 推譲することにより他者を「支える者」報徳金を借用して「支えられた者」 受領して、 息ではない) 他の困窮者救済に役立たせる仕組みを構築して この報徳冥加金が、この貸付金の特質です。 報徳無利息金貸付の内容は10 再び報徳仕法の原資 を上納しています。 (資金) に組み込み、 報徳役所ではそれを が、 1に示したと に変化してい 冥 加 金 61 ま

す。

おりです。



# 10-1 轟村報徳無利息金貸付の内容別総括表

		10		9		ω		7		თ		Ŋ		4		ω		N					8 0	0
人数計	中	人数	出精奇特人入札者	入数	借財返済	人数	家作普請	人数	薬用買入	人数	嫁吸入用	人数	農具買入	人数	農馬買入	人数	用水普請	人数	・地下げ	人数 すべて当座	(干魃)			― 1 轟村報徳無利息金貸付の内容別総括表
	30	拉	17	標位	ω											芹湖	00	清左掌門	_			릐	数	操
21	0	2 吉左衛門・五右衛門		2 藤右衛門・恵之助		-										16 芹沼线水引入250間	0		2			35	安政2 (1855)年	/無法
	2 0.0	五右衛	0		0	_										(250)	0 0	년 남 -	2 0		-	米次	(55)年	三河
	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -		17	機	<u>о</u>							VEIA	_	力力训練电解	3	<u></u>	_	- 選	4		8	<b>副</b>	W /	17
37	ω	さん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんしょう かんしょ かんしょう かんしょう かんしょう かんしょ かんしょ かんしょ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ	2	藤右律門	0	-						鉄蔵(	_	標筆	1			2 與市·吉左衛門 畑田成御手人	2	于鰯代 26人×1 同	0	55	安政3 (1856)年	立 8
7	2 4	・適点	0	_	0							1 住居焼失	0	5時間・	2			2 駐離門 手人	12	国 6	0	朱	1856)	区公公
	49.8	====	0	年 製 世	0								0	強	0	巴級		电电	174.8		0	沙	# 25	光上淡
	33	惠之財	17 2	2 伊右衛門: 妻子死・後 妻 與左衛門: 善左衛門 式養子	0 01									_		町谷・轟村 1300 間堀 波入用内 6両3分2朱永44		3 伊右衛門·次郎右衛門· 恵之助地下	3	大根種等付肥代	2 2	画分	数 级	T T T T
18	0	を表する。	0	1: 妻子	0											村130		3 沙野河	0			#	安政 4 (1857)	বা
	102.2	衛門	0	死·後 結論遇	0											20 学 44 44 44 44 44 44 44 44 44 44 44 44 4		后律門·	1022		0	沙	7)年	
	46	次即分	17	名主	7	武	7	海	22	推 排 源	ω								ω	10人	0	副	世	
28	2	2 次即右衛門・長左衛門	N	名主(見習) 名主(見習) 衛門告財嵩	0	1 武右衛門3月類焼普請	0	沙夏 1	0	1 潰幸助取立音吉 女房病死し後妻賞受度	0							3 五右衛門・五郎左衛門 豊吉 (3 分下置) 地下	2	10人×2分源右衛門 10人×2分源右衛門 跡彦左衛門1両2分増	2	分	<b>安</b> 政5 (1858)年	
	2 C	長左衛	0	五郎左	0	·  類焼産	0	夏以来眼病	0	美量	0							頭左續 置) 地	12	源右續 両2分	0	#	858) 4	
	0.0 29		0 17		0 4	3#	0		0	極	0			384	3			<b>1</b> ∄	0	00	0 4	沙画		
	0	と	2	那右衛門借財20両 蒿 家財売払も残金 有農際破畑7年賦	2	-								一海	0					人×2分	0	5	安政6 (1859)年	
12	0	・申払	0	1 間がも残留7年	0									持馬老馬	0					→ o	0	米	1859)	
	0.0		0	同物質	0									油	0					1 8	0	쐇	冊	
	0	さ おり とうがん とう とうがん とう かんしょう かんしょう おいかい とう おいかい とう おいま こう	17 2							鉄藏	3 2									*\	4 0	画分	万延元	
12	2	・覚え				-				/ 嫁貨受度	0									藤兵衛		*	万延元 (1860)年	
	0.0		0							姆	0										0	쐇	(年	
	52	35. 35. 36. 37. 37. 37. 37. 37. 37. 37. 37. 37. 37	17			0.5 鉄藏 去春居宅焼失 農具代3両共7年賦	7	6 與左衛門・藤兵衛・ 甚兵衛・伴七・與 市・疫病薬用之内半金 後家まさ1両1分余	4			鉄藏	ω	治力	5			7 伊右衛門切込余分 藤兵衛 2 両外	9	5人×3分 4. 1人1両2分	0	副	欢	
27	1 2	門・彦	2 0			0.5	0	明・課・日本 大田 大黒 大田 大黒 大田 大田 大田 大田 大田 大田 古田	1 0			0.5 鉄藏去春居宅焼失	0	思想 1	0 0			7 門切込 2 両外	1 2	3分 4 断2分	0 2	分朱	文久元(1861)年	
	2 119.8	左衛門	0	-		の 現 発 無	0	・ 原 ・ 原 ・ 原 ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の の ・ の の の の の の の の の の の の の	57.5			姚朱	0		0			余分	187.3	人×2分	0	沙	31)年	
	8 43		17			福祉代	Б	後未死元内家::	4					## UH	5				ω	   まさ1   分1人  人×25	0	릐	交久	
14	_	清左衛門・				大工会的	0	137年	2					l 1	0					1画 人 2: 2分		分		
	0 77.0	· 分	0 0			1 福蔵 居宅大破家相 不宜 大工作料並舒 代	0 0	1 後家まさ 文久元夏 夫・老婆・子供疫病 死 薬代・借財嵩借 元金 13 両 3 分余の 内 1/3 7 年賦	2 77					端	0 0					画 4人×3 ( 2分2朱3 分	2 0	米次	2 (1862)年	
	7.0 39		17		9	<u> </u>		「仮御の	7						6					3 茂温	6	조' ] ]		
	0	2 與左衛門・伴七	2	3 甚兵衛・藤右衛門・ 藤兵衛、嘉永5年富 士山下〜北川堰500 問堀割入甲村方積金 借用	0									湖 .	0					茂吉1両 4人×3 分 5人×2分	2	5	文久3 (1863)年	
16	0	門· 伴	0	多位的 医多种	0									持馬老馬	0					i 4人, ×2分	0	米	1863):	
	0.0		0		0									am .	0			4年			0	沙		
	1		17 2															1 年寄見習勘助地下入 用	2	/ 茂吉1両 2人×3 分 3人×2分 與 市1分2朱	1	画分	元治元 (1864)年	
10	2	次即先	0	-		-												勘財地	0	』 2人 、x2分 2朱		*	(1864	
	45.4	論門	0															77	45.4	æš	0	쐇	(年	
	36	藤	17	-		-		重左衛 薬用嵩	7					載	7	·				與左續 兵衛各 人×3.	Ŋ	副	颲	
10	3 0	を	2 0	_				1 重左衛門女房病死 薬用嵩	0 0					1 第 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀	0 0					門・茂川両分	7 0	分朱	慶応元 (1865)年	
	0.0	福蔵	0					物化	0					没無 │	0					り 與左衛門・茂吉・藤 兵衛各1両 外3 人×3分	0	沙	55)年	
	23			6 仕当仕上に当り、利 付借財格残6人へ貸付	14															   技兵人     地震 X	00	副	<b>圖</b>	
15	2			出上に設 対相残。	_															·與左 81両 8分		分	\$2 (18	
	2 1125			。 	2 11:															克吉·與左衛門·藤 兵衛各1両1分6 人×3分	0	米沙	慶応2 (1866)年	
	25 442		192	至無	1125 53		24		18		6		4		29		8		26	無	79	<b>副</b>		
2	3		2	_	ω		0		0	_	2	_	_		1	_	0		2	_	(1)	35	Oilli	
212	2	8	0	16	2 1	2.5	0	9	0	N	0	ъ	0	10	2	16	0	17	0	-	0	张	백	
	6.7		0		112.5		0		9.5		0		0		0		0		9.7		0	学		
		43%		12%		5%		4%		1%		1%		7%		2%		%					<b>基</b>	
_									_														14	1

『二宮尊徳全集』第28・29・30巻所収 「轟村無利足金貸付証文控」より作成



11-1 轟村の報徳仕法で行われた各種復興事業一覧

	19	18	17	16		15	14	13	12	=	10	9	ω	7	0	Ŋ	4		ω	)	2		_		No.
마	非常囲穀種俵	日掛索綯賞金	仕法仕上褒美金	畑小切・地下普請		木曽檜・槻苗木植付 130 畝 28・850 本	非常用意大根種手当	無利息金年賦貸付	新家作(伴七·與左 衛門居宅大破)	本家修復・屋根替	灰小屋普請 ・屋根替	極難困窮人 御救手当・夫食等	極難困窮人入札 救米	出精奇特人手当	農業出精奇特人 屋根替入札	農業出精奇特人 入札褒美	演式白姓収立		迪荷普莉	1 44 10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	用水堀・悪水堀普請		方地で減って		海田
102				-				30 0			_			4 0	13 2	4 0			350		新堀 6間 / 人	7 1	5 町 0	38 3	国分
>								2			20	2		0	ω	0			350間/71人	2	533 間	0	) 反 4 🕫		张
								0			24.3	0		0	43.6	ភូភ			71 X	82.4	新堀 633 間・941間 / 人足 211.5人	51.2	町0反4畝26歩	23.4	5分米次(文)
101								58				ω	2		=======================================	4	強	o		·		20	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	10	<u> </u>
- 0				-				ω 2				ω 2	2 2		2 0	0 2	助→音	3 0			∄328 0.5 从	ω 0	3 河	1 2	分米
78.9				-				49.				35	63.		39.	17	潰幸助→音吉取立	55			新堀 328 + 16 間 /110.5 人	118	3反5畝26歩	76.	西分朱
9 81							0	8 33		2			3		7	4		.2 15				Ń	_	.3 10	副
_							1	_		ω		0	ω	3	2	0	京右衛門	2					町 4 反	ω	\$ 5
л О				-			0 37.	0 102.		0 84.		2	31 0	0 2	0 33	2 13	潰源右衛門→豊吉	0 17					反2畝19	2 96	#
53 7				_ H			7.6	N		1.6		0	8.1	25	8.4	i>	애	17.2	1				崇	96.7	*
73 2				堪下8; /18.5,	0 3	0		46 2			4 2	2	4 2	0 2		0			1154間/165.5人	ω			4 亙	ω	国分
0				大	Ν	0		22			Ν.	22	2	0		0			¶/168	Ν			反 4 畝 28	Ν	#
20.1				带	52.7	0		0			61.5	40.3	30.2	0		114			5.5人	67.3			#	29.1	₩
63 0				_				29 0			ω 2	ω	4 0			4							2町3	18	画分
V								0			0	12	2			0							) N	0	*
112.9								0			65.5	0	37.9			55.9							熨18歩	78.6	沙
53								25			0	_	ഗ	0	_	4							_ 	13	副
0 2				_				0 2			2 2	2	2 0	3	ω 0	0							6 亙 2	ο ω	分 朱
77.7								0			34.3	79.	100	0	14.2	16.							敗 23	83	沙
7 98								52		2	ω	ω σ	6	0	10	7 4			1.	σı	描	2	· 特	16	副
2								1 2		0 1		1 0	1 2	1 2		0			1153間/162人	0	堀浚 223 間		町1反2	ω	分 朱
2 46				_				1		1 48.6		=	86	2 68.		95			/162	2 83.9	間 /66	2 123.3	2 敗 23	2 11	洲沙
66								9.8 43		8.6 2		5.2 0	5.5	2		6.6				.9	>	ω.ω	サー	6.6 11	X'     副
ω								3		20		ω	ω			0							町2万		分
2 9				1				0		0 2		0	0			2 30.							反1畝13	8	#
92.7								77		24.1		0	.5			00							3 饼	84.3	沙
57 3								39 0				1 0	4 2			0							(V)	9 0	画分
Ν.								0				0	2			12							9畝07	2	*
101.5								0				0	41.7			24.8							歩	35	沙
87				起返し三本鍬等 諸入用	2			25		11	_	_	υ	1		4							2町4	34	副
3 2					3 0			1 2		1 0	3 0	2 0	0 2	2 0		0 2							河 5	0 2	分 朱
42.6				樂	113.			45.4		89.8	1.9	0	60.2	0		92.2							數10歩	14.8	<b>%</b>
6 493					ω			36	102	83	ω	7	.,			4	海漬助	178			田田 湖田	44		32	릐
ω Ο								ω	2	2	0	0				ω	潰弥八→金助 潰甚右衛門→ 助次郎	ω			出捨 悪水堀148間畑田成共/401.2人		9 反 1 章	0	\$
0								0	Ν (1)	2	2	0 1				0	金門→	1 4			太樹 1~	_	反1畝04歩	0	#
65.5								0	33.7	14.6	13.5	105.3				16.7		46.9			25000000000000000000000000000000000000	14.3		70.5	쐇
365 0	107 3	11 3	36 2	爾手人 超小约3 反8數25歩 類 田成1町1反3畝 10歩/978.3人	130 2			22 2		14 0				0 2					206	9 0			1町3	31 3	画分
2	0	0	0	X 25 步 男 1 <i>L</i> 978.	0			22		2				0					206 間 /78.8 人	2			N N	0	*
75.9	38.8	20.1	0	河湖岛河海省	105.2			112.5		93.4				0					3.8 人	89.1			畝 24 歩	116.8	<b>%</b>
1644	107	=	36	~	2 134	0	0	5 442	102	116	15	35	41	9	34	46		201		19	群	56	₹22町2	8 230	副
2	ω	ω	N	足1163.3	_	0	1	ω	_	N	0	20	ω	2	N	0		0	2863間 /477.3 人	ω	新堀 1129 間・患 水堀 148 間・堀 浚 1164 間 / 人足 789.2 人	ω	12 亙 2	ω	3
1 108.4	0 38.	0 20.1	0	33.3   ≻	2 21	0	0 37.6	2 6.	2 33.	2 42.	3 13	2 0.	3	0 30.	ے ق	2 31		2 56.	477.3	0 72.7	三 人	3 57	反2畝25	3 12.	张火
 4.	œ		Ĺ	,	N		O	7	.7	.6	ĊΠ	4	ώ	.7	ω	9.		œ	>	.7	110 510	7	崇	·6	

一村式仕法開始前の嘉永7年 荒地起返し反別9反9畝14歩を入れると、表5-1の合計に合致します。 『二宮尊徳全集』 第 28・29・30 巻所収の各年「轟村荒地起返難村旧復御仕法入用米金取調帳」より作成

# 11 轟村一村式仕法の「総仕上

げられました。具体的には、報徳役所の指 導に基づく荒地の再開発を中心として、 ら 1 8 6 6 出精奇特人表彰と極難困窮人救済、 水路や道路の普請、 貸付等を複合的に展開しています(11–1 の新築や修繕、 式 報徳役所から総額 1644 2 0 0 0 仕 村 法 は、 生 慶 万円)が投入され、 潰れ式の再興、 活 1 8 5 5 応2) 安定を 村民自らの選挙による 年まで 目 安政 した轟 無利息金の 2 の 12 一両余 、家屋等 成し 年 年 遂約 間 か

を誓い、仕法の終了を願い出ます。ての問題が解決し、「安心永続の道」に到ての問題が解決し、「安心永続の道」に到ての問題が解決し、「安心永続の道」に到っての問題が解決し、「安心永続の道」に到った。

を開催 穀稗00俵の配備(もしもへの備え)を決定金の授与(一致協力への褒美)、④非常用 る最後の訓話では、「仕法終了後も、 ②報徳無利息金による村民借金の根本処理 を開催しています。その際、①日掛縄な日光奉行所役人の参列のもと「仕よげ会」 の道をめざすよう」 しています。 い積金の2割増返金 田高慶らは、 困窮の原因を断つ)、③全戸への丹精褒美 それを受けた報徳役所の二宮弥太郎 1866 (慶応2) 年4月に そして、弥太郎の村民に対す 譲り合い助け合い、 激励しています。 (積小為大への褒美)、その際、①日掛縄な •

村式仕法は幕を閉じます。

→轟村日掛索綯積立金取調帳

1866 (慶応2) 年4月 個人蔵

一村式仕法では、自力復興の考え方を 各人に徹底させるため日掛索綯を実践

させた。仕法期間12年を通して、1軒

に付1日縄1房を作り、その代金(1

房を銭5文で買取る)を報徳役所に積

み立てる仕組みである。1866 (慶応2)

年4月の轟村一村式仕法終了時に、積 立金に2割増の褒美金を加えた総額70

両2分余が返金され、それを各戸に配

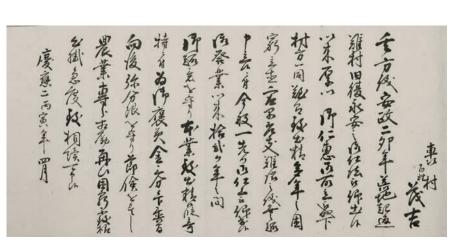
布している。まさしく自立復興をめざ

す「積小為大」の実践活動であった。

宮弥太郎と誓い合った「安心永続の道」・営んでいます。まさに今から15年前に二 き届 です。 観を見せてくれます。 して用水と水田が織りなす美しい農村景 の教えを受け継ぎながら安定した生活を 永久安堵の道」を歩んでいるかのよう いた道路、 日 0 地 域 そこに点在する 私たちに、 また、 人々は報徳 野仏、 手 入の

を、改めて確認することができます。が「二宮金次郎の報徳仕法」にあるこ私たちは、この展示を通して、その根





↑轟村御仕法御仕上願書控 1866 (慶応2) 年4月 個人蔵 轟村民28名が二宮弥太郎に宛てた嘆願 書。これにより、豊かで平穏になった

轟村の一村式仕法は終了となる。

↑御仕法御仕上に付褒美金三分下置かれ候申渡 1866 (慶応 2) 年 4 月 当館寄託

一村式仕法の終了に伴い、報徳役所から轟村民一同に対し、12年間の農業出精に対する褒美金が与えられた。本史料は、百姓茂吉に金3分が与えられたもの。

パンフレット作成・展示協力者 テーマ展を開催するにあたり、以下の方々に協力いただきま した。記して御礼申し上げます。(敬称略) 江連一彦 江連政喜 木村浩 狐塚昭子 狐塚正美 栃木県立博物館

後 行:日光市二宮尊徳記念館(日光市今市 304-1) 3 話:0288(25)7333 / FAX:0288(25)7334

発行日:令和2年11月3日

※本書を無断で転載・複製することを禁じます